



校長室便りにも書きましたが、夏休みを利用して学校の畑を広げ、田んぼも作りました。畑に何を植えようかと考えいろいろ挑戦してみました。インドネシアで食べる機会が多いカンクン（空心菜）も植えてみました。種から植えたのですが、すくすく成長しあつという間に食べられるくらいまでに育ちました。美味しくて、栄養価も高い。そして、成長が早いので育てる楽しみも多いカンクンです。挿し芽からも増えると知り、魅力満載の野菜です。

コマツナの水耕栽培 茂泉 和浩

私は家庭菜園が趣味で、ニラやトマト、コマツナなどを栽培していました。それだけでは物足りず、二十年ほど前には休耕田を借り、管理機も購入して野菜作りを始めました。

仕事をしながらの畑作りは予想以上に大変で、朝四時頃に畑に行き、水をまいたり雑草を抜いたりする作業に追われました。学校に出勤する頃にはエネルギー切れというときもありました。畑では夏に収穫するトマトとトウモロコシを中心に栽培しました。トウモロコシは、収穫するタイミングが大切で、早すぎても遅すぎてもいけません。暑い中、雑草抜きをしながら収穫時期を見定めました。いよいよ今日収穫という日の早朝、畑に行ってみるとカラスに食べられてしまったということもしばしばありました。私よりも一足早く収穫に来るカラスの知恵にはかえません。それ以降、鳥よけネットを張ってみたり鳥が嫌う光るもの（いらなくなったCD等）をぶら下げたりと、私とカラスの知恵比べは続き、私はいつも負けました。でも、そういった知恵比べが楽しくもありました。

野菜作りといえば、子供が夏休みの自由研究を何にするか困っていたので、野菜作りの本に

掲載されていたコマツナの水耕栽培実験をやってみたらどうかと勧めたことがありました。その本には、容器に水を入れ、スポンジが浮いた状態で種をまき育てると、コマツナの葉は横に開くというのです。土の上で育てたコマツナは、葉が上の方に向きます。私はとても不思議に思い本を読み進めました。するとこんなことが書いてありました。スポンジの上で育ったコマツナは、足下が安定しないのでバランスを取っているのではないかというのです。もしそれが本当だとしたら、植物の力はすごいと感心するとともに、そういった環境で育つことをかわいそうだとも思いました。残念ながら私の子供は興味を示さず、結局「雲の動き」を自由研究にし、実際にコマツナの実験をすることはありませんでした。

植物から学ぶことはたくさんあります。人間にも当てはまると思うこともあります。[5]の子供たちにも土に触れ、多くの学びを得てほしいと思っています。

最後に、インドネシアにカラスはいないということとを、こちらに来て初めて知り安心しました。

